

群馬県内企業のデジタル化およびDXに関するアンケート調査

群馬経済研究所 主任研究員 半田浩己

調査のポイント

経済活動のインフラとなる ICT やデジタル化の進展状況やデジタルトランスフォーメーション（以下、DX）^注への取組状況と、これを推進していく上での課題等についてアンケート調査を実施した。

注：本調査では、「企業が環境の変化に対応し、データやデジタル技術を活用して、顧客や社会のニーズをもとに、製品やサービス、ビジネスモデルを変革するとともに、業務そのものや組織、プロセス、企業文化・風土を変革し、競争上の優位を確立すること」（経済産業省）を指すものとする。

要約

- アンケート調査によると、ICT は新型コロナ感染拡大の影響により、リモートによる会議や研修、オンライン商談、あるいはテレワークなど、対面を避けて実施する業務に多く利用されている。
- 多くの企業が ICT 導入の目的として「社内における情報共有の促進」や「コスト削減」を挙げており、実際に一定の役割を果たしている。
- ICT 導入の課題として、「コスト負担」や「デジタル人材の育成」を挙げる企業が半数を超えている。
- ICT の課題解決のための相談相手として、「システム業者」が最も多く、「デジタル化を実施した先行他社」、「税理士」「取引金融機関」も一定程度みられた。
- DXに「取り組んでいる」企業は3割弱であったが、「取り組んでいないが必要性を感じている」企業も同程度みられた。
- DX取り組みへの課題として、「知識・情報・ノウハウの不足」を挙げる企業が最も多く、ICTと同様、「コスト負担」や「人材不足」がこれに続いた。